

2 経過 シューフィッターとシュナイダーシューズの出会い

就職した頃にはインターネットが普及し、情報入手が容易になった。オーダーメイド靴を注文する度胸はもちろん、購入予算がなく、既製品の靴を探し続けた。その後、シューフィッターという資格や、資格者が常駐する靴屋があることを知った。

私は、それまでより購入予算を増やし、「快足楽歩カンパニー おさだウイズ店」へ出向いた。シューフィッターである おさださんは「どんな靴が欲しいですか」と聞き、「運動靴、パンプス、ブーツ、何でも良い」と答えた。「全部は無いです」というような返答があり、予算額は伝えなかったが「全部は、買えませんよね」といった会話が続いた。

計測など含めて時間を要したが、快適に歩きたい決心があり、苦にならなかった。試し履きまで、見た目「希望なし」と諦めていたが、履き心地はもちろんのこと、とても素敵な靴で驚いた。まさに、シンデレラがガラスの靴をあてた気分だった。(私が描くシンデレラは、原作、日本語訳を超え、自作のプリンセスの物語だ)

その靴は、噂通り「買えない値段ではないが、安くはない」金額であったが、同行した友人に「躊躇う理由は無い」と背中を押された。購入が決まると、おさださんの微調節により、その靴は完璧になった。これが、シューフィッターとシュナイダー（シューズ）との出会いであった。

3 目的達成 足が泳がない人生が始まる

大切な靴を履き続けないようにするため、もう一足シュナイダーを買った。「今日、履く靴」に困っていた日々は、明日の天気や用件を考えて、靴を選ぶ日々が変わった。汚れ落とし用、艶出し用のクリームで磨いていたが、保管に失敗することもあり、靴屋へ持ち込んだこともあった。

シュナイダーをスーツケースに入れ、旅行や出張に出かけた。数年前、仕事が変わり白色の靴が必要になると、希望通りのシュナイダーを手に入れることができ、安定性に優れたその靴が、私の集中力を高めてくれた。まさに私は、シュナイダーとともに人生を歩み、成長している。

これまでに私は、フィット感ある雨靴、モダンな下駄、さらに、人生の節目にキラキラした靴も買い、現在20足所有している。すべて「快足楽歩カンパニー おさだウイズ店」で購入した靴であり、そのうち12足がシュナイダーである。履きつぶしてしまった靴もあれば、手入れや保管が悪く処分したこともあるが、靴屋に通い始めて20年で「コンプリート」した。「あなたの人生に、それ以上の靴が必要か」と問われるほど、女の買い物をしてきた。

この靴屋の顧客は皆、プリンセスの瞬間を、味わっていると思う。特に、足幅の狭いシュナイダー愛用者は、強く感じているはずだ。試し履きで「プリンセスみたい」と感じた人も、シューフィッターによる手仕事（微調節）で「プリンセスだ」という確信に変わり、「足の泳ぎ」に邪魔されない人生が始まっている。